

CPPシーラントフィルム用ポリプロピレン (高剛性タイプ・超低温シールタイプ)

開発ステージ

研究・開発段階

導入検討段階

実用化段階

キーワード

モノマテリアル化

軽量化

用途

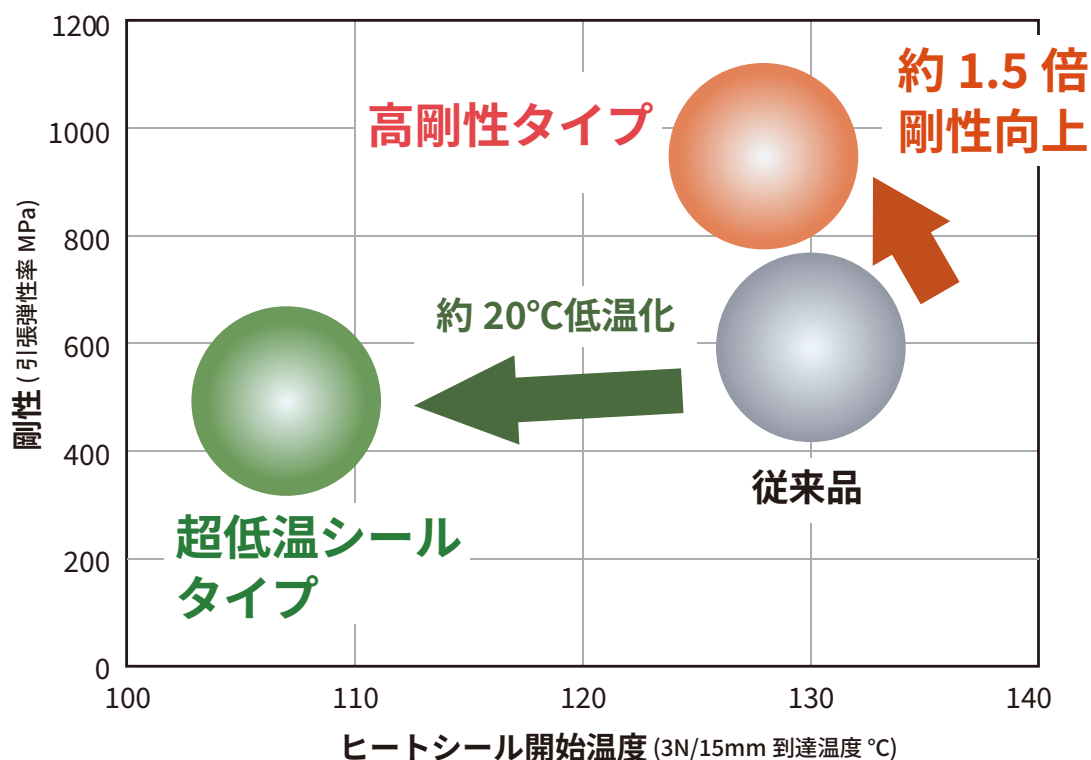
各種食品・工業用 CPP シーラントフィルム

課題

- 薄肉化時に包材の剛性が低下してしまう
- 包材の剛性・コシ感が不足し、形状安定性が低い
- 製袋時の生産性を向上したい
- PP モノマテリアル包材において、基材の熱変形が発生する

ソリューション

従来シーラントフィルム用 PP よりも、剛性が向上した「**高剛性タイプ**」、
ヒートシール開始温度を低温化した「**超低温シールタイプ**」をご提案します



ベネフィット

- 高剛性タイプ**を使用することで、包材の薄肉化・樹脂使用量削減、包材の形状安定性が向上
- 超低温シールタイプ**を使用することで、
製袋時の生産性向上・エネルギー使用量の低減に貢献、包材 (基材) の熱変形が低減

お問い合わせ |  日本ポリプロ株式会社

免責事項 本資料に記載された試験結果、技術情報、推奨事項等は、弊社が蓄積した経験および実験室データに基づいて作成したもので、異なった条件下で使用される製品にそのまま適用できるとは限りません。従いまして、お客様の製品、使用条件にそのまま適用できることを保証するものではなく、それらの活用に関してはお客様で責任を持って判断する必要があります。弊社はいかなる場合においても、本製品を単独または他の製品と組み合わせて使用した場合の、製品への適合性及び本書に記載された用途における市場性と安全性については保証しません。